

NEWSLETTER

No100919

「ナンバーオペレーションは数学だ。」と述べました。

数学は、小学校では算数と呼ばれます。しかし、「算数」と「数学」に本質的な違いがあるわけではありません。数学を英語では“mathematics” (略して“math”)と言います。その中には、algebra (代数)、geometry (幾何学)、calculus (微積分学)など分野があります。日本の学校で習う数学にも、一次関数、二次関数、三角関数、指数、対数、ベクトル、数列、微分、積分などの学習分野があります。小学校で習う数学(算数)には、四則演算、少数・分数の計算、図形(三角形や四角形)、角度、面積などの学習項目があります。

それらの分野や項目は教育的目的で作られたものです。算数と数学に本質的な違いはありません。算数も数学です。上に掲げた数学の分野や項目やすべてが繋がっています。それぞれの分野が独立しているわけではないのです。

また、学校で習ったように(教えられたように)、教科書の例題にあるような問題を解くことが数学の本質ではありません。ナンバーオペレーションにおいては、学校教育を通じて意味身についた数学についての考え方や意識を変える必要があります。数学とは“数”を媒介として論理性を追求することです。論理性とは筋が通っていることです。

数式は記号と数字で表された文章です。

その文章は自在に変形し表現を変えることができます。それがハンドでありハンド操作になります。

知る必要はありませんが、高度な数学の理論に言及するなら、マトリックスには三角関数が関係しています。時間がかかわる関数はすべて三角関数で表すことができます(フーリエの定理)。細かいレイズは微分、収益は積分で表すことができます。ローテーションもそれらの数学的理論と関係しています。バリューチェーンには代数の理論が関わっています。

物理学はさらに数学の応用です。数値の変化の原理、RM は物理学の速度と関係しています。

ナンバーオペレーションを習得するのと小中高時代に算数/数学が得意だったかどうかは関係ありません。願わくは、数を好きになってほしいと思います。数学とは、突き詰めれば、数とは何か、そして、数を媒介として論理性を追求し学ぶことです。その基本的な姿勢がナンバーオペレーションの実践に関係します。

ナンバーオペレーションにはマネーが関係しています。マネーを扱う特殊な数学が会計学です。私たちのグループでは会計学を数学として扱っています。

以上について知れば、マトリックスやバリューチェーンを見る皆さんの目が変わってくるだろうと思います。

マトリックスの数値/数値構造を見た後は、バリューチェーンに目を通してください。

文章通が「数」の学問です。
「数」とは何かと問い
続けざまにお
ナンバーオペレーションの深さがわかります
その深さが本質であり隠れた真理です。
ポイントを改めて
よく観下し、教育的に
美しいと感じられたい
特にCF(キャッシュフロー)に着目し
RMが発見するたびに物理学(理科)の速度も
思いおこす。